

# 学校沿革概要

明治7(1874)年2月	董小学校創立(忍海, 新町, 董, 東辻, 北十三, 東松本, 竹田)
明治19(1886)年	西辻小学校創立(南花内, 西辻, 林堂, 山田, 平岡, 山口, 笛吹, 梅室, 脇田)
明治23(1890)年5月	董, 西辻, 両校を廃し, 忍海尋常小学校を創立し, 竹田, 笛吹に分教場を設置
明治31(1898)年3月	柳原分校を設置し, 竹田, 笛吹両分教場を廃止
明治31(1898)年3月	本校及び分校とも新校舎落成
大正9(1920)年4月	忍海尋常高等小学校と改称し, 御所高等小学校へ通学していた本校区児童を収容
昭和3(1928)年3月	校舎改築工事落成式挙行
昭和15(1940)年10月	講堂新築落成
昭和16(1941)年4月	南葛城郡忍海国民学校と改称
昭和22(1947)年4月	南葛城郡忍海村立忍海小学校と改称(忍海中学校併設)
昭和31(1956)年5月	町村合併により北葛城郡新庄町立忍海小学校と改称
昭和40(1965)年4月	障害児学級設置
昭和41(1966)年3月	新校舎(本館)完成
昭和41年6月	体育館, 給食配膳室, 運動具倉庫, 周囲の塀完成
昭和42(1967)年5月	プール建設
昭和43(1968)年11月	健康優良学校県一受賞
昭和47(1972)年3月	校舎増築完成(4学級教室, 視聴覚教室, 放送室, 家庭科教室, 給食配膳室, 資料室等)
昭和47年6月	放送教育研究発表会開催
昭和48(1973)年4月	附属幼稚園開園
昭和51(1976)年10月	放送教育全国大会出場校
昭和53(1978)年6月	校舎増改築完成, 運動場新設(食堂, 図書室を含む8教室)
昭和53年8月	新プール建設
昭和53年10月	教育工学全国大会会場校
昭和54(1979)年5月	県みどりの少年団認定
昭和57(1982)年6月	第14回全国教授組織研究大会会場校
昭和57年10月	昭和56・57年度県教育委員会指定研究学校研究発表会開催
昭和59(1984)年10月	ソニー理科教育振興資金「優良校」受賞
昭和61(1986)年10月	創立百周年記念式典を挙行「希望」の像完成, タイムカプセルを埋設
平成2(1990)年2月	読書感想画中央コンクール「学校賞」受賞
平成4(1992)年3月	新体育館, 新幼稚園舎完成
平成4年4月	附属幼稚園2年保育実施
平成4年8月	校舎大規模改修工事完成
平成5(1993)年11月	第53回全国教育美術展「学校賞」受賞
平成6(1994)年11月	第54回全国教育美術展「教育美術奨励賞」受賞
平成7(1995)年11月	第55回全国教育美術展「奈良県教育委員会賞」受賞
平成11(1999)年4月	文部省・奈良県教育委員会指定人権教育研究指定事業を受ける。
平成12(2000)年3月	第30回世界児童画展「都道府県団体賞」受賞
平成12年11月	第60回全国教育美術展「学校賞」受賞
平成12年11月	文部省・奈良県教育委員会指定人権教育研究指定校研究発表会開催
平成14(2002)年2月	第61回全国教育美術展「奨励賞」受賞
平成14年10月	第39回全国花いっぱいコンクール県審査学校の部「奨励賞」受賞
平成16(2004)年2月	第64回全国教育美術展「地区学校賞(教育委員会賞)」受賞
平成16年10月	葛城市制施行に伴い, 新庄町立忍海小学校より葛城市立忍海小学校と改称
平成18(2006)年11月	第9回近畿地区小学校生活科教育研究協議会奈良大会開催
平成20(2008)年6月	校舎第一期改築完成(北館西・東館)
平成21(2009)年3月	校舎第二期改築完成(北館東・西渡り廊下)
平成23(2011)年1月	元気な大和っ子を育む学校表彰「知事賞」受賞
平成24(2012)年11月	第34回奈良県小学校生徒指導研究大会開催
平成25(2013)年8月	校舎耐震大規模改修工事終了(南館)
平成27(2015)年4月	子どもの読書活動推進フォーラムにおいて「文部科学大臣賞」受賞
平成29(2017)年	葛城市教育委員会指定研究(前期)
平成30(2018)年	葛城市教育委員会指定研究(後期)
平成30年10月	平成30年度奈良県国語教育研究会秋季大会・葛城市教育委員会指定研究発表会開催
令和2(2020)年2月	第78回全国教育美術展「奈良県教育委員会賞」受賞
令和3(2021)年3月	耐震性貯水槽(飲料水兼用地上設置40m <sup>3</sup> )

## 忍海の紹介

忍海小学校がある葛城市は、奈良県北西部に位置する市である。平成16年10月1日に、新庄町と當麻町が合併し葛城市となった。令和3年4月1日現在で37,631人の人口を有し、自然や歴史がたいへん豊かな市である。大阪近郊にあることから、大阪のベッドタウンとしても発展を続けている。

忍海小学校区周辺は工業が盛んで、電子部品、医薬品や、清涼飲料、軽金属、梱包材、履き物等を製造する工場がある。JR和歌山線、近鉄御所線、国道24号線、県道御所香芝線(山麓線)が校区を南北に貫き、交通の要衝となっているため、大和高田、奈良、大阪方面への通勤者も多い。農業は稲作中心だが、野菜や花卉栽培も行われ、葛城市が全国一の生産量を誇る二輪菊栽培も盛んである。また、忍海地区は奈良県酪農発祥の地で90年以上の歴史を誇る。現在も十数戸の酪農家が校区内にあり、新鮮な生乳を京阪神の消費地に供給している。

遺跡や文化財にも恵まれ、それらの出土品や収藏品等を展示する葛城市歴史博物館が忍海小学校の北隣にある。また、「日本書紀」には、「飯豊青皇女(いとよのあおのみこ)」が、「忍海角刺宮(おしぬみつぬさしのみや)」で「忍海飯豊青尊(おしぬみいとよのあおのみこと)」と名乗り、「臨朝秉政(みかどまつりごとしたまう…政治を行った)」と記されている。飯豊青皇女は、一時天皇に準ずる地位にあり、その宮を置いたとされるのが角刺神社がある。さらに、葛城山麓の笛吹地区には、火の神である火雷神(ほのいかずちのかみ)を祭神にする「葛木坐火雷神社(かつらきいますほのいかづちじんじや)」(笛吹神社)がある。そのような古い歴史に恵まれるとともに、近代産業の盛んな地域に忍海小学校は位置している。

忍海小学校は、東西に細長い校区を成し、しかも葛城山の山麓地域を含んでおり、子どもたちは恵まれた自然の中で生活している。